

ズームイン！
カシャ！！



広報担当がどこにでも取材に行きます。
あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



甚大な被害を受けた株式会社一成（牧之原区）への寄贈の様子

はしゆきお 橋幸夫さんからの浄財を寄贈

■突風被害を受けた茶業関係者に義援金寄贈

牧之原市茶業振興協議会（会長：杉本基久雄市長）では9月30日から、「令和3年5月1日牧之原市竜巻等災害」の被害を受けた茶業関係者に対し、義援金「茶太郎募金」の寄贈を開始しました。

この義援金は、静岡牧之原茶親善大使で歌手の橋幸夫さんが、全国各地のコンサート会場で募金活動などを行って集めたもので、橋さんが7月に市役所を訪問した際、寄付してくださいました。

この義援金は10月末までに、被災した茶業関係者に対し、被害の程度に応じて寄贈します。

7年に一度の御開帳

■権九如意輪観世音菩薩（権九堂）御開帳

数え年で7年に一度だけ御開帳される権九如意輪観世音菩薩（牧之原市指定文化財、朝生地区）が、9月20日から26日まで公開され、地元の住民らで法要などが執り行われました。

権九堂は病気や良縁、そして子宝、安産にご利益があると伝えられ、多くの参拝客が訪れます。

本年はコロナ禍のため、中日のイベントは中止となりましたが、ご利益を望む多くの参拝客が訪れ、境内では地元関係者らが感染予防対策の呼びかけを行いました。



参拝に訪れた家族連れ



新聞で使う写真を選ぶ運営委員会の児童

地域の人に学校の自慢を発信

■学校じまん紹介新聞づくり

萩間小学校では9月中旬から下旬にかけて、運営委員会の児童を中心に「学校じまん紹介新聞」を作成しました。

コロナ禍により、学校ボランティアや地域のお年寄り、保護者などが学校を訪れ、児童の生活の様子を直に見る機会が減少。そこで、運営委員会の児童が、学校の自慢を新聞にまとめて地域に発信することを発案しました。

全校児童約150人は、学校内で自慢だと思うものやお気に入りの場所などの写真を各自の学習用端末で撮影し、運営委員会に送信。運営委員会の児童が話し合っって写真を選び、新聞を完成させました。完成した新聞は、9月末に地域の皆さんに配付しました。

白からピンク、赤へと変化

■大鐘家のスイフヨウが見頃

国指定重要文化財「大鐘家」（片浜区）のスイフヨウが9月下旬から10月上旬まで見頃を迎え、来場者を楽しませました。

この花は、朝は白、昼はピンク、夕方には赤と花の色が変化し、まるでお酒に酔っていくような様子から、漢字で「酔芙蓉」と命名されました。

およそ1,000坪の庭園には多くのスイフヨウが群生し、その他にも一般的なピンク色の「芙蓉」や「アメリカン芙蓉」「ムクゲ」など約100本が開花し、庭園を彩りました。



長屋門前で咲き誇るスイフヨウ



自慢の歌声を披露する参加者

さまざまな音楽を堪能

■第14回牧之原市音楽マラソン

9月26日、相良総合センターい〜らで「第14回牧之原市音楽マラソン」が開催されました。

コロナ禍により前年の開催が中止となったこのイベントは、本年はステージ近くの座席を立入禁止にし、会場内を一方通行としたほか、掛け声を禁止するなど感染防止対策を徹底して開催。当日は市内外から76組が参加し、ピアノやハーモニカ、尺八などの楽器演奏、歌唱など、さまざまな音楽を披露しました。来場者は次々に披露される音楽を堪能し、心地よい時間を過ごしました。

100歳長寿者を敬い祝福

■100歳長寿者に祝状などの伝達訪問

9月14日、敬老の日を前に、本年度100歳を迎える人の自宅などを杉本市長と担当者らが訪問し、内閣総理大臣および県知事からの祝状などを伝達しました。

杉本市長の訪問に「とてもありがたいこと」と喜んだ山本ふささん（細江区）。長寿の秘訣を聞かれた山本さんは「お酒を飲むこと」と笑顔で答え、「また今日からスタートという気持ちで、一日一日を大切に生きていきたい」と力強く抱負を語ってくれました。



杉本市長の訪問を喜ぶ山本さん（右）



はぎ掛け米を体験する児童

秋の収穫をみんなで楽しむ

■稲刈り体験

萩間小学校の5年生20人が9月14日、学校の裏にある田んぼで稲刈り体験を行いました。

この体験は、子どもたちに収穫の喜びを味わってもらおうと、地域のボランティア団体「ヨコグラの会」の協力で毎年行われています。

児童は6月に田植えをし、大切に育ててきた「うるち米」と「もち米」をヨコグラの会のメンバーから指導を受けながら収穫し、刈り取った稲を自然乾燥させる「はぎ掛け米」も体験。みんなで秋の収穫を楽しみました。